

不登校生徒への支援の在り方に関する研究

教育相談室 池田 浩二 渡部 勇樹 大砂 直樹
 宇都宮 由紀 齋宮 美紀 富田 和宏
 研究協力者 愛媛大学教育学部教育臨床准教授
 相模 健人

1 研究の目的

文部科学省の調査によると、児童生徒数は年々減少しているのに対し、平成24年度以降、不登校児童生徒数は増加している。そのうち、中学校の不登校生徒数の占める割合が高くなっている。不登校生徒に対しては学校全体で支援を行うことが必要である。そのためには、教職員が支援等について、心理や福祉の専門家や関係機関等と連携、分担する「チームとしての学校」の活性化に向けた取組が肝要である。

そこで、本研究では、不登校サポートチームへの支援を通して、不登校生徒への効果的な支援の在り方を探り、社会的自立に向けて不登校生徒の学校復帰を支援することを目的とし、2か年継続で取り組むこととした。

2 研究の内容

(1) 1年次の取組

ア 不登校に関する実態調査と結果

県内公立中学校を対象に、不登校生徒への支援に関するアンケート調査を実施した。調査結果から、ケース会議について、開催が不定期であること、不登校生徒の支援に役立つシートの活用が少ないこと、心理や福祉の専門家が参加している割合が少ないこと等が分かった。

イ 不登校生徒支援シートの作成とケース会議の充実

ケース会議の充実を図るため、協力学校教職員を対象にケース会議に関する研修を行うとともに、4種類の不登校生徒支援シート（共通シート、学年別シート、ケース会議記録シート、支援策経過・評価シート）を作成した。また、これらのシートを活用しながら、生徒指導部を中心とした通常ケース会議と、関係機関と連携した拡大ケース会議を定期的に開催した。

(2) 2年次の取組

ア 不登校生徒支援シートの改善

1年次の課題を踏まえ、不登校生徒支援シート記入例の作成、及び、不登校生徒支援シートの改善を行い、シートの活用促進を図った。ケース会議記録シートは、生徒の特性等を記入する配慮事項欄を追加し、支援策経過・評価シートは、支援策の経過状況及び評価が一目で分かるように構成を見直した。また、ケース会議に心理や福祉の専門家が参加できない場合でも、参加者が支援策等に関する専門家の助言を共有するために、支援策評価・連携シートを新たに作成した。さらに、個人情報や安全に管理するため、シートの取扱い指針を示した。

イ 不登校生徒支援のための資料「不登校生徒支援のツボ」の作成

不登校生徒の状態に応じた支援をするための参考となり、ケース会議においても、支援方針や支援策を検討する際に利用できる資料「不登校生徒支援のツボ」を作成した。

3 研究のまとめ

不登校生徒支援シートを活用したケース会議を定期的に開催したことで、対象生徒の状況等を継続的に把握することができ、チームで支援方針等を共有した上で、役割分担して支援に当たることができた。また、定期的に支援の計画や評価等を行うことで、PDCAサイクルの取組が可能となった。これらの結果、対象生徒の一人が、学校復帰することができた。

今後は、本センターのホームページに本研究で作成・使用した資料を公開するとともに、本資料が、より実用的なものとなり、不登校児童生徒支援の一助となるよう努めていきたい。